

## 秀賞

私がそのドアを開くとき  
新潟県新潟市立五十嵐中学校  
3年 小林 美春

言語には見えない壁がある。だが、その壁にはドアがあると私は思っている。私が今チャレンジしていること、それは外国語の勉強だ。“外国語”と一括りにしても、世界には7千もの言語が存在している。その中で私は英語と韓国語を小学生の頃から勉強を続けている。

私には言語を学ぼうとした大きなきっかけがある。私が小学6年生の2月、世界的に有名になったとある番組がある。その番組は、韓国で活躍するため日中韓・アメリカにカナダ、ベトナムやタイなど世界中から人が集まっていた。番組が進むなかで言語のちがいで意見がまとまらず雰囲気が悪くなる姿が多く放送で見られた。また、視聴者は自分の理解できる言語で字幕をつけて見る人が多かった。字幕をつけて見ていると、たまにニュアンスの違いで誤解をうむ文章を生み出してしまうことがある。そのたびに放送や出演者に対して批判の声が集まってしまっていた。当時の私は、私が見ているこの字幕は本当に正しいのか？ この言語の壁は超えることはできないのだろうか？ と日々疑問を覚えていた。この番組が最終回を迎えるころ、不思議なことに韓国語、いわゆるハングルの読みと書きができるようになっていた。3ヶ月という短い間で覚えられたのは言語に対する気持ちがとても強かったからだと思う。番組が終わっても私の心は変わらず独学で韓国語を勉強するようになった。私の覚え方は斬新で、テキストなどは使わず、ただ韓国語を日常的に取り入れて過ごすようにした。スマートフォンのアプリの言語設定を韓国語にしてみたり、気になった単語があったら調べてみたり。このような生活を2年ほどしてきた現在、韓国語の日常会話はほぼ理解し、書けて、話せるようになった。この出来事で私は、何か新しいことを始めるときは、思いつきと好奇心が重要なのだと学ぶことができた。

私が韓国語を学んでいるなかで、「人が他言語を学ぶ意味」についてよく聞かれる。似ている事例で、英語が苦手な友達は「英語は学ぶ必要はあまりない。困ったときは、英語のできる人に任せればよいし、今の時代はA Iも活用できる。」ということがある。たしかに、日本語も英語も分かる人は世間には多いかもしれないし、A Iに翻訳を頼めば手間も時間もかかるかもしれないかもしれない。だけれど、私は思う。自分の考えや感情を他人やA Iに任せいいのだろうか？ 自分の言葉を誰かに委ねていいのだろうか？ 私は自分の言葉に責任を持つと

いう意味でも、言語を学ぶ重要性があると思う。将来、どんな仕事に就いていようとも、世界ではグローバル化も進んでいるからどんな状況に置かれるかが予測できないこともあるからだ。

また、言語を学ぶなかで日本語に対する理解も深まった。例えば「やばい」という言葉。「このリンゴやばい」という1文では、リンゴがおいしくてやばいのか、甘すぎてやばいのか、まずくてやばいのかが分からぬ。そしてこの文を英語や韓国語に訳そうとしても直訳の意味にあたる言葉が存在しないのだ。そのぐらい「やばい」という言葉の汎用性は非常に高い。便利な言葉だけれど、直訳になる言葉が存在しないので、それが原因でトラブルに繋がってしまうこともある。これに関しては日本人同士でも意味のくみ取り方の違いでトラブルにもなってしまう。だからこそ、他言語を勉強して言葉の表現方法を学んでみてもよいと思う。

私が英語、韓国語を学んで、その先に何を描いているのか。私は今チャレンジしているこの言語力を使って将来、国と国、人と人、言語と言語を繋ぐ懸け橋になりたい。言語間で困っている人が安心して言葉を預けられるようなそんな人になりたい。まだ明確な職業などは決めていないし、しっかり自分に合った働きをしたいと思っている。今は受験勉強に必死だけれど、無事に高校生になれたら高校の勉強と並行してより細かい英語と韓国語をたくさん吸収したい。そして私は見えない壁にあるドアを開け、ドアの先にある世界と世界を結ぶ懸け橋となる。